まちなかの見方

まちなかの新町橋や名張川護岸などからは、名張川の流れや山並みを背景に美しい風景が望めます。

これらの構造は、まちなかの貴重な自然的景観資源といえます。

江戸時代の錦絵（二代目広重作）である「諸國六十八景・伊賀名張」には、豊かな名張川の流れや小高い丘を背景に、街道沿いのまちが描かれています。

●地区を取り巻くように流れる名張川

「錦絵」（名張市指定文化財にみる名張川）

名張地区西部の市街地周縁部には、古くは黒田庄と呼ばれるまとまりのある田園地帯があり、その背景となる山並みやそれらを明確に区切る名張川沿いの竹藪などが折り重なり、特徴的な景観を形成しています。

これらは、まちなかの貴重な自然景観資源といえます。

●地区西部に広がる田園地帯

まちなかを網の目のように流れる築瀬（やなせ）水路は、1636 年、藤堂高吉の城下町建設の時にさかのぼります。高岩井堰取水口から、名張川の水が取り入れられ、名張地区を貫流し、末端で 7 ヶ所に分かれて名張川へ流れ出ています。現在でも豊かな水量が確保され、農業用灌漑用水としてだけでなく、生活に密着したまちの景観資源の一つにもなっています。

また、この築瀬（やなせ）水路では、自然石積みの護岸構造が残る部分もみられ、歴史的建築物とともに、まちなかの貴重なまちづくり資源ですが、交通事情や生活様式の変化により、暗渠化が進み、名張らしさのある水路の景観が失われつつあります。

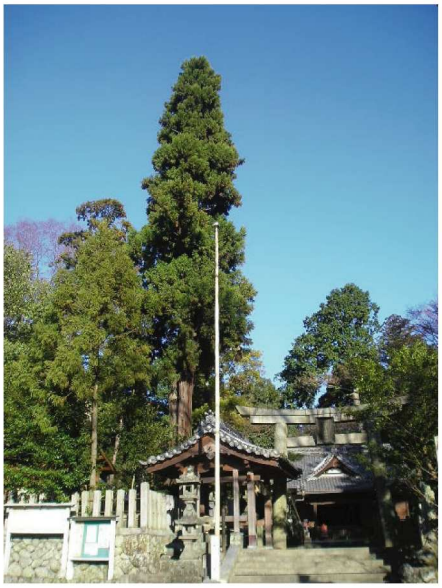
●地区内を網羅する築瀬水路の流れ

まちなかの平坦地には城下町・宿場町として栄えたまちなみが広がり、台地には名張藤堂家邸跡や名張城址の石積みが残るなど、桔梗ヶ丘や平尾山の地形的特徴を活かした都市構造が現在でもみられます。

これらは、貴重な歴史的景観資源といえます。

●桔梗ヶ丘に残る旧名張藤堂家邸跡

まちなかでは、宇流富志禰(うるふしね)神社、桔梗ヶ丘の寿栄(じゅえい)神社の杜(もり)、名張城址の屋敷林などが、緑のランドマークとなっており、まちなかに潤いを与えています。



●ランドマークとしての神社などの緑

「えべっさん」と呼ばれ市民に親しまれている「八日戎」が２月７・８日、鍛冶町の蛭子(えびす)神社で行われています。

八日戎は、別名「はまぐり祭」とも呼ばれ、たくさんの露店に混じって、はまぐりの市が開かれます。

これは、「初瀬(はせ)街道」の要所であったこの地で開かれていた、山の幸と海の幸の交換市の名残で、 今に残っている商品がはまぐりと植木であると言われています。

●八日戎や花火大会などの季節行事

やなせ宿では、名張川沿いの広場や中庭、蔵、和室などを活用した、様々なまちづくり活動や催しが企画・開催されています。

●やなせ宿での取組